

横浜市交通政策推進協議会
第11回地域交通部会 会議要旨

1 日時 平成30年3月23日（金）13:30～14:45

2 場所 横浜市役所本庁舎6階 B会議室

3 議事内容

- (1) 横浜都市交通計画の改定について
- (2) 地域交通施策をとりまく状況
- (3) 今後の進め方について

4 議事要旨

- (1) 横浜都市交通計画の改定について

横浜市都市整備局都市交通課から説明

- (2) 地域交通施策をとりまく状況

横浜市都市整備局都市交通課及び特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワークから説明

(横浜市)

- ・都筑区（山下、池辺地区）でボランティアバスの実証運行を実施している。地域からは、移動手段としてだけでなく、ひきこもりの解消や、高齢者の外出支援にもつながったという声も聞かれた。今後、効果についてはしっかり検証していきたい。
- ・青葉区鉄町では、総合病院のバスの空き席を活用し、高齢者の送迎を無料で行う実証実験を開始した。

- (3) 今後の進め方について

横浜市都市整備局都市交通課から説明

(横浜市)

- ・地域全体としての仕組み作りは必要だと思われる。地域という切り口でないと、エリアごとの解決につながらないのではないかと。
- ・福祉と交通については、今後、さらなる取組が必要である。一般解を求めるのは難しいが、事例を積み上げ、仕組み作りにつなげたい。

- ・来年度は、まずは庁内で課題を共有し、議論を深めた上で、部会を開催したい。頻度のイメージとしては、年2、3回程度。

(福祉輸送関連)

- ・地域の交通手段の確保だけでなく、これまで出かけなかった人への外出を誘発することも重要である。交通計画等で理想・理念は共有できていると思うが、具体的にどうするかというのはこれから検討が必要である。
- ・ケアプラ近くにフリースペースを確保し、タクシーとバスの乗り換えをできないか。モードを超えた取組について検討していきたい。
- ・配車アプリは来街者等の利用者にとっての使いやすさが課題である。
- ・今後の進め方について、高齢者や障がい者など色々な人がいる中、何にどれだけの補助をしてもらえるのかが不明瞭である。支出は伴わない支援なのか、地域特性に合わせた取組とするのか、市としてパターン化して進めるのかなど、範囲が広すぎてイメージがつかめない。
- ・高齢・障害の各課で取り組むべき事案と、地域全体で「移動に困っている」という観点で一緒に取り組めることもあるように思う。
- ・障がい者も高齢者も移動が困難という点では共通なので、高齢者もタクシー利用券が使えるなどができればよい。
- ・できれば事前に何を検討するか等をアナウンスしてほしい。

(タクシー関連)

- ・公共交通を補完するサービスとして、具体的に何ができるかわからない。ニーズはあるが、人手不足が顕著である。当面は人づくりが大事である。
- ・タクシー協会としては、タクシー運転手は全員UDタクシー研修を受けるよう長期的に取り組んでいきたい。タクベルのようにICTで今使える車をわかりやすくタイムリーに使う人に知らせるのは大事だと思う。
- ・バスとタクシーの連携の可能性について、両者の間にある壁は大きいと思うが、大倉山駅や菊名駅など自然発生的に共存が出来ている例もある。このような事例が、交通結節点の改善としてきちんと整理されれば、良いモデルになりそう。
- ・瀬谷区では、聴覚障がい者のために、タクシー会社がFAXで配車を受けると取り上げられたが、共通フォーマットを作成したということで、半歩前進した取組。来月配信する配車アプリは、音声を使わずに配車が可能。聴覚障がい者への周知も必要と考えている。

【まとめ】

- ・次回は、横浜市の福祉担当と交通担当が情報共有及び意見交換を行い、今後の方向性について議論したうえで、部会を開催する。

5 出席者

- ・特定非営利活動法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
- ・アサヒタクシー株式会社
- ・神奈川中央交通株式会社
- ・東宝タクシー株式会社
- ・横浜市 健康福祉局 障害福祉課
- ・横浜市 健康福祉局 高齢在宅支援課
- ・横浜市 道路局 企画課 交通計画担当
- ・横浜市 都市整備局 都市交通課（事務局）